

## 現代社会[分析]

第1日程と同様、大学入学共通テスト問題作成方針に則した内容となっている。

設問で提示された主張や観点と、具体的政策や取り組みとの適合性を判別するタイプの出題が目立つ。

### 難易度（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

#### 第1日程並み

分量、情報量、問われている知識水準に変化がなく、第1日程と同水準であると思われる。

### 出題分量（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

大問数は5題、マーク数は30で、第1日程と同じ。

### 出題傾向分析（【第1日程(1月16日・17日)】との比較）

資料文を読み取る能力をはかる問題や、設問で示された条件に適合するものを選択するような思考力・判断力を問う問題の他、基本的な知識を問う問題も相当数出題されており、出題傾向に変化はない。

### 2021年度【第2日程(1月30日・31日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	人々の暮らしをめぐる諸問題	26	8
第2問	日本国憲法をめぐる諸問題	23	7
第3問	戦後日本経済と国際社会	16	5
第4問	国際社会の動向と課題	23	7
第5問	持続可能なまちづくり	12	3
合計		100	30

### 2021年度【第1日程(1月16日・17日)】フレーム

大問	分野	配点	マーク数
第1問	民主主義の原理と統治機構	26	8
第2問	持続可能な開発と政治的意思決定	16	5
第3問	市場経済と政府の役割	27	8
第4問	現代社会と青年	19	6
第5問	高齢化と地域社会	12	3
合計		100	30

### 設問別分析

#### 第1問

農村部にある祖父母の家に出かけた高校生と大学生の会話文をもとに、機会費用、ユニバーサルデザインとバリアフリー、家族に関する判例、社会保障制度と日本の高齢化、マズローの欲求階層説、食料・農業問題、センの潜在能力についての知識が問われている。また、問5では、提示された主張と合致する見解を選択させる問題が出題されており、思考力や判断力を高める学習が必要である。

#### 第2問

日本国憲法をめぐる、基本的人権、日本思想、西洋近現代思想、裁判員制度、選挙制度、国会の権限についての知識が問われている。問4・問5では、提示された資料文に関わる憲法上の規定を選択させる問題が出題されており、長い資料文の読解力を高める学習が必要である。

#### 第3問

終戦直後に出された日本経済再建に関する報告書をもとに、戦後国際社会の動向、地域統合、戦後復興期の日本経済、社会保障制度の歴史と現状、環境問題についての知識が問われている。問5では、下線部に適合する課題例への姿勢を選択したうえで、それに適合する記述を選択させる問題が出題されており、思考力や判断力を高める学習が必要である。

#### 第4問

世界的な課題をめぐる会話文をもとに、国際的な組織、地域紛争、E U、難民条約、冷戦後の国際政治上の出来事の年代順、国際裁判、SDGsについての知識が問われている。問4では、条約の条文が示され、その定義に該当する事例を選択させる問題が出題されており、具体的な事例に即して考える力を高める学習が必要である。

#### 第5問

持続可能なまちづくりをめぐる、資料の読み取り、提示された政策の背景にある考え方を選択させる問題、提示された観点に基づく取り組みを選択させる問題が出題されている。フローチャートを読み取ったうえで、適切な内容を判断できるような学習が必要である。

### 過去平均点の推移

21年度※ 【第1日程】 (1月16日・17日)	20年度	19年度	18年度	17年度
58.4	57.3	56.8	58.2	57.4

※2021年度の平均点は1/22大学入試センター発表の中間集計その2の平均点です。